

湘南ベルマーレJ1復帰へ

社会医学講座 准教授 梅田 孝

昨年十二月五日午後、私をはじめ講座スタッフはインターネットで配信されるJ2最終節・湘南ベルマーレ対水戸ホーリーホック戦の試合経過を祈る思いで何度も確認しながら、一喜一憂していました。結果は湘南ベルマーレの大逆転勝利、同チームの十一年ぶりのJ1復帰が決定した瞬間でした。我々がこの三年間、待ちに待った瞬間でした。

湘南ベルマーレのスポーツ医学サポートを始めたきっかけは、二〇〇七年本学大学院医学研究科に大学院生として須田芳正先生（慶応大学体育研究所講師）が入学したことにあります。須田先生自身もかつて浦和レッズに所属した元J1リーガーで、本講座でサッカー選手のコンディショニングや健康管理に関する研究を行うことを希望し入学しました。入学後、須田先生に研究テーマに関する相談を受けた私は、研究を開始するにあたり、「どうせやるならサッカーのトップ選手、しかもそういうことに指導者、選手が興味や関心を持ち、フィードバックする研究結果をスポーツ現場でどんどん実践してくれるチームが良い。」と話しました。須田先生の高校の後輩である



適切な栄養摂取状況、シーズン中の慢性的な疲労の出現等が明らかになりました。我々はこの結果をもとにその都度、指導者、選手本人に休養、栄養、トレーニングに関する問題点とその改善策をアドバイスしました。さらに、球団側もこれを機に、重要課題の一つであった食事面で改善を図り、二〇〇八年からは通常練習時の昼食を球団で準備、管理し、選手が昼食だけでなくしっかりと栄養を補給し、栄養摂取の大切さを認識、自覚させる試み、取り組みを始めてくれました。また、その甲斐あって、次第に選手自身が休養や栄養を中心とした適切な健康管理、コンディショニングの在り方とその重要性を認識し、これに対し自発的に行動する姿もみられはじめました。

さらに、二〇〇九年シーズンは北京五輪サッカーチームの監督を務めた反町康治氏を指揮官に迎えたことから、我々も今年がサポートの勝負どころとらえ、メディカルチェックの頻度を上げ、より細かなサポートを行いました。また、二〇〇九年の各調査結果は、公式戦出場選手の選考やチーム・個人の休養の取らせ方の基礎データとして用いられました。その結果、J1復帰という最高の成果につながったのです。我々はこれまで多くのス

ポーツ選手を対象に様々なスポーツ医学研究、サポート活動を行ってきました。しかし、昨年度の東洋大学駅伝部の箱根駅伝優勝や今回のような素晴らしい成果が得られることは稀です。二年連続で我々の活動がこのような成果となって現れた要因は、両活動ともに研究者である我々とスポーツ選手・指導者が直接向き合い話合いながら、その研究結果を積極的にスポーツ現場にフィードバックし、より適切な健康管理やコンディショニング対策に応用できたことにあると思います。その結果、選手あるい

は指導者が健康やコンディションへの関心や興味を深め、その有効性を認識・自覚し、これを積極的・自発的に実践できるようになったと思います。我々は今後もこのような取り組みを重ねながら、スポーツ医学の発展並びに競技スポーツ選手の強化策の一助となることを目指して研究活動を行っていく所存です。最後になりましたが、本活動にご理解、ご協力頂いたベルマーレの球団関係者の皆様、学外共同研究者の皆様に心よりお礼申し上げます。

大学院の現状

学事委員長 若林 孝一
(脳神経病理学講座 教授)

平成十九年四月に大学院医学研究科が部局化されてから三年が経過しました。この部局化は大学院の教育研究活動の比重が高まってきたことに対する措置でもあります。大学院のアクティビティは多角的に評価されるべきですが、その重要な指標の一つに充足率があります。ここでは充足率に焦点を当て、大学院の現状について述べてみたいと思います。

(1) 充足率が重視される理由

現在、文科省は各大学に対し大学院の充足率が九十パーセント以上となることを求めています。その理由は必ずしも明らかではありませんが、大学院として申

はありません。

(2) 大学院の入学定員

医学研究科の入学定員は平成十八年度まで六十四名でしたが、保健学研究科博士後期課程に定員九名を振り替えたことにより平成十九年度から五十五名となりました。さらに、医学部医学科の入学定員が「経済財政改革の基本方針2008」によって五名増加したことに伴い、大学院は五名減って、昨年度から五十名となりました。したがって、現在の大学院の収容定員は、三年生と四年生が五十五名、一年生と二年生が五十名であり、合計すると二百十名となります。

(3) 大学院の充足率

図1は最近十年間の入学定員に対する充足率を年度ごとに示したものです。平成十三年から十八年度まで入学定員に対する充足率は約四十から八十パーセントの間を推移し、平均すると六十パーセント程度でしたが、十九年度と二十年度は八十四パーセントと上昇し、二十一年度には充足率百パーセントを達成しました。

た。さらに、二十二年度は百三十六パーセントを記録しました（定員五十名に対し六十八名が入学）。さらに、図2は大学院全体（一年生から四年生までの収容定員）に対する充足率を示したものです。十三年以降、充足率は六十パーセント前後を推移しておりまして、ここ数年は上昇を示し、ついに百パーセントを達成しました。現在、収容定員二百十名に対し二百二十三名が在籍しており、充足率は百六パーセントです。今後は、この充足率を維持するとともに、大学院の実質化を進める必要があります。

(4) 充足率アップのために

医学科の入学定員が従来の百名から百二十五名に増加し、AO入試、青森県定着枠の新設などの入試改革も進められています。大学院入試も例年三次募集まで行い、平成十九年度からは指導教授が許可した場合に臨床研修の二年目から大学院入学を認めることにしました。大学院生の確保のためには、卒業後に本学あるいは青森県に残ってくれる学生を増やし、それによって大学院生ならびに指導教員が研究に専念できる時間的余裕を作ることが肝要と思われます。今後とも、ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

図1 入学定員に対する充足率

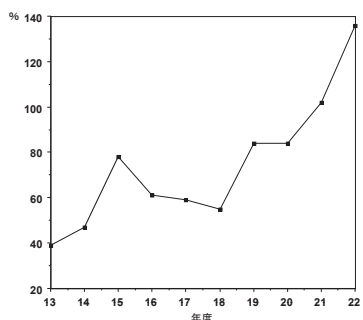
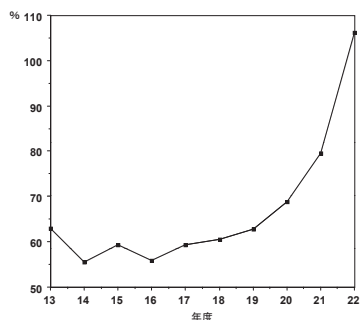


図2 収容定員に対する充足率



長稿
科 奇
究 長
研 部
学 学
医 医

大学院医学研究科の今後

医学研究科長・医学部長 佐藤 敬



この四月に国立大学法人の評価結果が新聞紙上に公表され、学内にも少なからず動揺があったと思いま

す。私たちは、その評価法や公表の在り方などに少なからぬ疑問を抱いており、教授会などでもさまざまな議論がありました。一方、この結果を自らの問題としてとらえることも重要

です。一例として、大学院充足率の問題があります。平成十九年度末の暫定評価の時点で、医学研究科の収容定員充足率が低く、課程全体としての充足率が九十%に満たないために低い評価を受けました。私たちは、それ以前から大学院生の確保に努力してきましたが、三・四年度の充足率が六割程度にとどまっていたため、十九年度内に全体の充足率を上げることはできませんでした。確かに、もっと早くから定員を減らすことが可能であったのなら、数字的には良かったのかもしれませんが。しかし、私たちは定員をできるだけ減らすことなく、大学院博士課程を充実させる方向で以前から努力してきました。大学院の部局化、専攻の見直し、大学院教育の実質化など、大学院の教育研究に再び活力を取り戻すことを目指して努力してきたのだと思います。結果としては、その努力の成果を期間内に達成できなかったと受け止めざるを得ません。

幸い平成二十二年度には充足率一〇〇%を達成することができ、それは多くの皆さんの努力の結果と感謝しています。しかし、この結果を国立大学法人評価への対応のみに終わらせることなく、本来の目的である大学院のさらなる充実のため、引き続き努力していかなければなりません。もう少し長い目で見た時に、これまでの努力が是とされるべく、なにより、医学・医療を通して社会貢献を十分に果たすべく、大学院における教育研究にも力を尽くしていくことが必要だと思います。

結果を国立大学法人評価への対応のみに終わらせることなく、本来の目的である大学院のさらなる充実のため、引き続き努力していかなければなりません。もう少し長い目で見た時に、これまでの努力が是とされるべく、なにより、医学・医療を通して社会貢献を十分に果たすべく、大学院における教育研究にも力を尽くしていくことが必要だと思います。

入試専門委員会報告

平成二十二年度

AO及び前期日程入試を振り返って

医学科入試専門委員長 中根 明夫
(感染症体防御学講座 教授)

昨年六月の学士編入学第一次選抜試験に始まった平成二十二年度入試が無事に終了し、四月六日の入学式で新入生を迎えることができました。また、新型インフルエンザの影響で、追試も予定されましたが、幸いインフルエンザによる欠席者がなく、どの選抜も追試験を行うことなく無事終わりました。それぞれの選抜試験にお忙しい中、試験監

督や面接委員、出題委員、採点委員をしていただいた先生方および学務担当をはじめとした事務職員の方々に改めてお礼を申し上げます。平成二十二年度入試全体を振り返ってみますと、本学医学科においては前期日程の志願者倍率が八・三一倍と、ここ三年間高倍率を維持しています(表1)。昨年度に引き続き臨

時定員増五名が認められたので、増員五名分を前期日程の青森県定着枠に組み入れ、前期日程の定員は青森県定着枠十五名と一般枠五十名の合計六十五名となりました。アドミッショ

着枠」は、定員十五名のところ百二十四名の志願者となり、昨年より志願者が二十名減少しました。これは、昨年度高倍率かつハイレベルであったため、敬遠した志願者が少なからずいたためと思われます。

入学者の出身地域をみますと(表2)、今年も青森県出身者が増加しました。昨年度の四十二名から四十六名となり、これに三

ました。一方、高等学校卒業後の期間に関しては、現役が増加しました(表3)。また、女子が二十九名、学士編入学を入れても三十二名にとどまり、残念ながら女子入学者が十名減少しました。平成二十二年度入学者総数は三年次編入学試験も含めると千九十一名となり、昨年度より十九名増加しました。

これからの入試の大きな変更点は、学士編入学が三年次から二年次後期になることです。従って、今年十月から二年次後期編入学生が入学してきますので、選抜試験も前倒しとなります。早速六月六日に第一次選抜試験が行われます。最後に平成二十一・二十三年度の入学選抜試験の予定を表4としてお知らせいたします。年を追う毎に教員あ

入試は第一次選抜を平成二十一年十一月七日・八日に行いました。「模擬講義に関する筆記試験」「個人面接」による評価を行い、受験者百二名から八十名を合格者とししました。第二次選抜は十二月二十日に「ケーススタディの自学自習」「ワークシヨップ」による評価を行い、大学入試センター試験の結果(資格試験)を待って、最終的に四十名の合格者を決定しました。青森県が三十八名、岩手県が一名、秋田県が一名という結果でした。一方、前期日程の「青森県定

出身高等学校では、青森高等学校十六名、弘前高等学校十四名、八戸高等学校三名、三本木高等学校三名と続き、引き続き弘前・青森の二校の強さが発揮され

ました。一方、高等学校卒業後の期間に関しては、現役が増加しました(表3)。また、女子が二十九名、学士編入学を入れても三十二名にとどまり、残念ながら女子入学者が十名減少しました。平成二十二年度入学者総数は三年次編入学試験も含めると千九十一名となり、昨年度より十九名増加しました。

これからの入試の大きな変更点は、学士編入学が三年次から二年次後期になることです。従って、今年十月から二年次後期編入学生が入学してきますので、選抜試験も前倒しとなります。早速六月六日に第一次選抜試験が行われます。最後に平成二十一・二十三年度の入学選抜試験の予定を表4としてお知らせいたします。年を追う毎に教員あ

の教職員と学生、総計約三百二十名が出席しました。慰霊祭に先立って、弘前大学医学部管弦楽団と創立五十周年記念アンサンブル(指揮：馬場正之氏)による慰霊のための音楽「アヴェ・ヴェルム・コルプス」(作曲：モーツァルト)と「アヴェ・マリア」(作曲：カッチーニ)が演奏され参加者に感動を与えました。引き続き式に入り、御霊への黙祷の後、解剖体のご芳名が奉読され、つぎに佐藤医学部長による祭詞、学生代表(医学科三年 谷 健吾)による弔辞、代表者献花(佐藤敬医学部長、花田勝美医学部附属病院長、對馬均医学部保健学科長、遠藤正彦弘前大学長、医学科三年市川奈葉、保健学科三年吉田舞、奥田稔白菊会理事長)が行われた後、花田病院長からお礼の言葉がありました。そして最後にしめやかな調べのなか参会者全員が献花を行って式を終了しました。

慰霊祭終了後、ご遺族や白菊会の方々をも交え、医学部関係教職員は弘前市霊園にある医学部納骨および埋骨施設にお参りして献花と黙祷を行いました。こちらは、同じ弘前とはいえ、雨の降った様子があまりなく好天に恵まれ、今年は遅かった山桜と咲き始めようとするリ

の移動はとても素晴らしいものでした。また、霊園の高台からは、岩木山がハッキリと見えとても美しかったのが印象的でした。

表1. 志願者倍率(カッコ内は受験者倍率)

年度	推薦入試	AO入試	前期日程	後期日程	計
18	4.00 (4.00)	—	6.16 (5.44)	12.00 (6.60)	5.85 (5.06)
19	3.03 (3.03)	—	5.44 (4.56)	—	4.54 (3.99)
20	3.45 (3.45)	—	8.34 (7.18)	—	6.17 (5.52)
21	—	2.25 (2.25)	8.53 (7.22)	—	6.02 (5.22)
22	—	2.55 (2.55)	8.31 (7.08)	—	6.11 (5.32)

募集人員：平成 18 年度は推薦入試 25 (うち青森県枠 15)、前期日程 50、後期日程 5。平成 19 年度は推薦入試 30 (うち青森県枠 20)、前期日程 50、後期日程は廃止となった。平成 20 年度は臨時定員増 10 名があったため、推薦入試 40 (うち青森県内枠 30) となった。平成 21 年度は推薦入試を廃止し、その定員をAO入試に移行し、すべて地域枠とした。また、新たな定員増 10 名は前期日程に青森県定着枠として設定した。この結果前期日程は 60 名となった。平成 22 年度は、さらに 5 名の定員増が認められたため、前期日程青森県定着枠に組み入れた。この結果前期日程は 65 (青森県定着枠 15、一般枠 50) となった。

表2. 地域別入学者数

年度	青森県	東北 5 県	北海道	その他	計
18	24 (15/9)	12 (9/3)	7 (4/3)	37 (26/11)	80 (54/26)
19	22 (11/11)	14 (10/4)	6 (5/1)	38 (25/13)	80 (51/29)
20	39 (27/12)	13(9/4)	5(4/1)	33(28/5)	90(68/22)
21	42 (22/20)	12 (9/3)	8 (5/3)	38 (27/11)	100 (63/37)
22	46 (30/16)	14 (10/4)	5 (4/1)	40 (32/8)	105 (76/29)

カッコ内は男女比

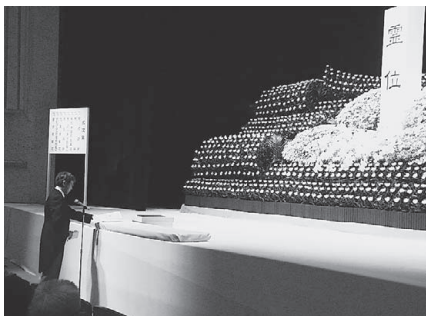
表3. 高校卒業後の期間別入学者数

年度	現役	1 年	2 年	3 年以上	その他
18	33 (23/10)	20 (10/10)	13 (8/5)	14 (13/1)	0
19	37 (20/17)	20 (13/7)	12 (8/4)	11 (10/1)	0
20	50 (33/17)	16 (14/2)	5 (4/1)	18 (16/2)	1 (1/0)
21	41(21/20)	26 (18/8)	19 (13/6)	14 (11/3)	0
22	48 (30/18)	24 (19/5)	14(13/1)	19(14/5)	0

カッコ内は男女比

表4. 平成 22・23 年度入試選抜試験日程

22 年 6 月 6 日 (日)	二年次後期学士編入学第一次選抜 (学力試験)
22 年 7 月 3 日 (土)	二年次後期学士編入学第二次選抜 (学力試験、個人面接)
7 月 4 日 (日)	
22 年 10 月 2 日 (土)	AO 入学第一次選抜 (模擬講義試験、個人面接)
10 月 3 日 (日)	
22 年 11 月 7 日 (日)	AO 入学第二次選抜 (ケーススタディの自学自習、ワークシヨップによる評価)
23 年 1 月 15 日 (土)	大学入試センター試験
1 月 16 日 (日)	
23 年 2 月 25 日 (金)	前期日程選抜 (学力試験)
2 月 26 日 (土)	前期日程選抜 (集団面接)



平成22年度 解剖体慰霊祭

神経解剖・細胞組織学講座 教授 一戸 紀孝

平成二十二年度の弘前大学医学部解剖体慰霊祭は、五月七日(金)の午後一時半から弘前文化センターで行われました。始まる直前

の教職員と学生、総計約三百二十名が出席しました。慰霊祭に先立って、弘前大学医学部管弦楽団と創立五十周年記念アンサンブル(指揮：馬場正之氏)による慰霊のための音楽「アヴェ・ヴェルム・コルプス」(作曲：モーツァルト)と「アヴェ・マリア」(作曲：カッチーニ)が演奏され参加者に感動を与えました。引き続き式

に入り、御霊への黙祷の後、解剖体のご芳名が奉読され、つぎに佐藤医学部長による祭詞、学生代表(医学科三年 谷 健吾)による弔辞、代表者献花(佐藤敬医学部長、花田勝美医学部附属病院長、對馬均医学部保健学科長、遠藤正彦弘前大学長、医学科三年市川奈葉、保健学科三年吉田舞、奥田稔白菊会理事長)が行われた後、花田病院長からお礼の言葉がありました。そして最後にしめやかな調べのなか参会者全員が献花を行って式を終了しました。

平成二十一年度 卒業生進路状況

副学務委員長 鬼島 宏
(病理生命科学講座 教授)

まず第一〇四回医師国家試験の結果について報告する。弘前大学の国家試験合格率は新卒九四・八％(九二／九七)、全体九一・四％(九六／一〇五)と去年の新卒九七・〇％には劣るものの素晴らしい結果であった。新卒の医師国家試験合格率九五％以上という弘前大学の掲げる目標には

卒業生の地域別研修先

(付表参照)は、

H19～H21卒業生進路状況

	平成19年度卒業生進路		平成20年度卒業生進路		平成21年度卒業生進路	
	人数	%	人数	%	人数	%
青森県	35	34.3%	34	33.7%	40	41.2%
北海道	8	7.8%	10	9.9%	6	6.2%
東北(青森県以外)	13	12.7%	15	14.9%	14	14.4%
関東(東京都以外)	11	10.8%	15	14.9%	14	14.4%
東京	6	5.9%	9	8.9%	11	11.3%
中部	11	10.8%	9	8.9%	2	2.1%
近畿以西	10	9.8%	4	4.0%	5	5.2%
不合格・その他	8	7.8%	5	5.0%	5	5.2%

合計	102	100.0%	101	100.0%	97	100.0%
----	-----	--------	-----	--------	----	--------

国家試験合格者	101	99.0%	98	97.0%	92	94.8%
---------	-----	-------	----	-------	----	-------

青森県内が四十名(四一・二％)であった。過去数年間の青森県内の推移は、二十七日名(H19)、三十五日名(H20)、三十四名(H21)であり増加傾向にある。一方、北海道・東北(青森を除く)が約二五％、関東・東京が二五％、中部以西が七％であった。

青森県内のうち初年度に弘前大学医学部附属病院で研修する卒業生は、一昨年が十三名(プログラムA二名、B七名、C三名、D一名)、今年が十一名(プログラムA二名、B三名、C五

弘前大学を去るにあたって

青森市民病院長 棟方博文



平成九年十二月一日に橋本功病院長から辞令を交付され、以来十二年四か月が瞬く間に過ぎてしまいました。私は昭和四十五年三月弘前大学医学部を卒業と同時に消化器外科医の道を志し、大内清太教授の主宰する第二外科学教室に入局しました。第二外科では私が入局した年から四つのグループ診療制を採用し、その中で沼田俊三講師をチームに小児外科グループも結成されました。先天性食道閉鎖症の青森県初の手術成功例もその年でしたが、当時の私は別なグループに属していたためその快挙にはまったく無縁でした。私をはじめ小児外科グループに配属されたのは卒業三年目ごろで、小児外科に興味をいだくまでには多くの時

間を要しませんでした。昭和五十年に沼田先生が開業されるころ、大内先生から教授室に呼ばれ小児外科を勧められました。先輩からは「学位取得前から将来の専門分野を決定されることは例外的である」と、幾度か言われたことがありました。昭和五十四年には国立小児病院(現国立成育医療研究センター)での研修の機会を与えられ、翌年の昭和五十五年からは十三年間小児外科を担当しました。その間大内清太先生は退官され教室は小野慶一先生、今充先生へと引き継がれました。平成五年から五年間の国立ハンセン病療養所勤務を経て、平成九年十二月一日付けで思いがけずまた大学で学ぶ機会を与えられました。着任した当時は研究室の所在は未定で、現在の新臨床研究棟に移るまで旧中央診療棟五階と地下一階旧救急部跡で在任期間の大部分を過ごすことになりました。新設の科は御多間に漏れず人員、診療器材、運営費が少ないた

め、私の出身母体である旧第二外科の全面的な支援をいただきました。患者数も着実に増加し、現在では青森県唯一の日本小児外科学会認定施設として、県内はもとより秋田県や函館市などからも患児が救急搬送されるようになりました。これも皆様のご支援、ご協力の賜物であり心からお礼申し上げます。

さて、医師になつて四十一年間、私は事あるごとに大内先生の教えを念頭においております。先生は教室員の教育には大変厳格な方で、患者の診方、物の考え方、手術手技など、一貫した考え方のもとに指導されました。それは人間の生き方にも通ずる教えであったと今は感じております。また、私はこれまで多くのすばらしい方々との出会いにも恵まれました。先輩、同僚、友人、後輩そして国立ハンセン病療養所を通して知りあった仲間など。大学を去るにあたって振り返ってみますと、それぞれの出会いにはみな意味を

平成21年度 弘前大学学生表彰

教育・学生委員会 鬼島 宏
(病理生命科学講座 教授)

平成二十二年二月二十二日、平成二十一年度弘前大学学生表彰式が、文京地区の大学キャンパスにて開催された。弘前大学学生表彰は、当該年度ないしその前年度に課外活動・研究活動・社会活動等で顕著な成果を挙げた学生または団体で表彰されるに値するものが、全学の教育・学生委員会で審議・選出されて、学長より表彰される制度である。今年度は医学科・医学研究科から、十二の個人・団体が荣誉ある表彰を受けた。

羽賀敏博(六年) 日本病理学会研究発表・論文公刊
中野雅之(六年) 日本病理学会研究発表・学部学生最優秀賞

持っており、今その意味を深く噛み締め、心から感謝しております。

今後の医学研究科ならびに附属病院の発展を心からお祈り申し上げます。

- 優秀賞受賞
多和田有紀(六年) 第二十五回全日本女子駅伝出場、全国都道府県対抗女子駅伝出場、アップルマラソン・フルマラソン女子優勝(二連覇)、横浜国際女子マラソンにて青森県記録・東北学生記録更新
四茂野恵奈(四年) 第三十九回北医体バドミントン女子複準優勝、第五十二回東医体バドミントン女子単三位、女子複三位
追切裕江(四年) 第五十二回東医体バドミントン女子複三位
内田康幸(四年) 第五十二回東医体空手道男子個人組手準優勝
小林麻美(六年) 第五十二回東医体空手道女子個人形三位
小渡亮介(六年) 第五十二回東医体空手道男子個人形優勝、男子個人組手三位
三木康生(三年) 国際学術誌英文論文公刊(筆頭著者五編)
- 岡本亜希子(院四年) 泌尿器科紀要公刊論文による稲田賞受賞
医学部空手道部 第五十二回東医体空手道男子総合・団体形・団体組手優勝
医学部バドミントン部 第三十九回北医体バドミントン女子団体準優勝、第五十二回東医体バドミントン女子団体三位
医学部ウォーカー本号の



平成21年度弘前大学学生表彰式

「卒業生進路状況」で述べたとおり、国家試験合格率のみならず、共用試験結果や臨床研修における卒業生の活躍などで、全国的にも弘前大学医学部の教育レベルが高い評価を受けるようになってきている。加えて、学生表彰者をはじめとして課外活動等の分野でも活躍してくれる学生が多いのは、頼もしい限りである。前回の学生表彰とは異なり、学部学生の研究活動においても顕著な成果を挙げた学生が二名選出されたのはすばらしいことである。医学科三年次後期には研究室研修のキャリアラムもあり、在学中から研究に触れる機会があり、その成果のひとつの表れであると理解したい。

今後も、学生諸君が弘前大学医学部医学科で文武両道を実践するとともに、より一層充実した大学生活を送ることを期待している。

第6回 日本消化管学会総会学術集会の 優秀演題賞を受賞して

（特発性腸間膜静脈硬化症の 9 症例による原因物質の検討）

消化器内科・血液内科・膠原病内科 助教（診療講師） 吉村 徹郎



この度、平成二十二年二月十九日～二十日に福岡で開催された第六回日本消化管学会総会学術集会にて消化管学会より優秀演題賞を頂きましたのでご報告いたします。日本消化管学会は今回が第六回となっておりますように比較的新しくできた学会で自分自身も今回が初めての参加でありました。二日間にわたり、炎症性腸疾患や内視鏡診断・治療の話題を中心に活発な討議がなされていきました。

今回、受賞の理由となりました特発性腸間膜静脈硬化症は腸間膜静脈硬化に起因した還流障害による慢性虚血性大腸病変を指したものです。症状としては腹痛、下痢、便秘、腹部膨満などが生じ、罹患部は回腸末端から直腸に及びますが特に右半結腸に強い変化を示します。診断には下部消化管内視鏡検査が有用で大腸粘膜が特徴的な青銅～赤銅色に変化を呈して連続性に浮腫状となりびらん・潰瘍が認められ、腹部X線写

第2回

日本小児血液学会賞を受賞して

小児科 助手 佐藤 知彦



昨年十一月に行われた、第五十一回日本小児血液学会において日本小児血液学会賞なるものを頂きました。この賞は、「わが国でおこなわれた小児血液学の分野における秀でた臨床および基礎研究を顕彰する」もので、日本小児血液学会

員が発表した原著論文のうち、毎年臨床・基礎系のそれぞれ各一編のみが選ばれ、栄誉ある賞です。私にとっては非常に名誉なことではありますが、分不相応ともいえる賞で、本当は気恥ずかしい思いもあるのですが、医学部ウォーカーからこうして寄稿依頼がありましたので、今回は真面目に書くことを書いてみたいと思います。

私は、Down 症関連白血病発症に關与すると思われる JAK3 という遺伝子について研究しました。ごく

だき、九症例を集めることができませんでした。その九症例を病理学的に診断し背景要因や既往歴・内服薬などの情報を提供していただいて検討することで漢方薬に含まれる成分の一つであるサンシシ（Gardenia）の關与が示唆されました。そうしたなか、これだけの症例を集めて診断することができたのは普段より弘前消化器病研究会など日々の臨床で問題となった症例を病理の先生も含めて検討し、情報を共有することでの疾患を疑い診断することができたと思われま

す。今後もし一つの症例を大事にしていくことでこのような発表ができればと思っています。最後に本件の受賞に際し症例の提供や病理の診断にご協力を頂いた方々に御礼申し上げます。

簡単にその内容を紹介しますと、① Down 症関連白血病患者における JAK3 遺伝子変異の頻度、② 新たに見つかった変異型 JAK3 遺伝子の機能解析、③ JAK3 を target とした新規薬剤の可能性、について主に実験を行いました。新しい発見もありましたが、negative data もあり、私の論文の意義とか価値に関してだんだんと自分ではわからなくなりました。しかし、その後いくつかの論文で引用されたこともあり、自分の実験・研究は無駄では

なく、いくらかはその分野で貢献できているのかなあと感じるようになりました。こういった研究の積み重ねが将来、患者さんに何らかの形で還元されるものだと思っていますし、そういう意味において臨床の医師としても有意義なことと感じました。

平成21年度 ベスト研修医賞選考会

卒後臨床研修センター長 加藤 博之
（総合診療医学講座 教授）

行った。聴衆は学生および教職員で、スピーチのあと参加した五十一名の学生諸君（特にこの一年間臨床実習で研修医に間近に接してきた五年生が中心）による投票が行われ、石原佳奈先生が平成二十一年度ベスト研修医に選ばれた。引き続き弘仁会食堂にて表彰式が行われ、石原先生に賞状、純銀製メダル、記念品が、次点となった五十嵐、田村両先生には優秀研修医賞として賞状、楯、記念品が贈られた。その他にも各種特別賞として、この一年間コメディカルスタッフから最も高い評価を受けた廣瀬勝己先生に「ベストパートナー賞」、研修医が提出すべき各種症例レポートを最も一生懸命書いた岡本哲平先生に「レポート大賞」、この一年間の研修医向け各種セミナーの出席率が最高であった鎌田順道先生に「セミナー賞」が贈られた。さらに



ベスト研修医賞選考会で研修医の発表に聞き入る参加者たち。

事務方からも、研修関係の事務手続きに今年最も迅速かつ正確に協力してくれた廣瀬千穂先生に、感謝の意を込めて「グッドレスポンス賞」が贈られた。つづい

（次ページへ続く）



花田病院長よりベスト研修医賞を贈呈される石原佳奈先生。



列を作ってベスト研修医賞の投票を行う学生諸君。

平成21年度

医学科学位記伝達式および 第五十六回卒業記念謝恩会

学務委員長 奥村 謙
(循環呼吸腎臓内科学講座 教授)



平成二十二年三月二十四日午前十一時三十分から、医学部コミュニケーションセンター大ホールにおいて、平成二十一年度学位記(医学士)伝達式が、遠

藤正彦学長、石戸谷忻一鵬 桜会理事長ご列席のもとで行われた。平成二十一年度医学部医学科卒業生総数は九十七名で、この中には三

来四回目となる卒業生二十名も含まれていた。学位記伝達式では六年間(または学士編入四年間)の勉学の苦

式では佐藤敬医学部長から卒業生一人一人に対して学位記の伝達が粛々と行われる中、会場を埋め尽くし

た卒業生諸君に加えて、ご来賓の方々や教員も新たな門出の喜びを卒業生達と共に有していた。伝達式の後半は、石戸谷忻一鵬桜会理事長からいつものユーモアを交えた同窓会のご紹介があ

った。会場には見事な花が添えられ、またとくに女子卒業生の華麗な格好、着物姿も加わり、厳肅な中にも華やかな雰囲気の中で、滞りなく式は終了した。

学位記伝達式と同日の三月二十四日、午後五時三十分よりホテルニューキャッスルにおいて、医学部医学科第五十六回卒業記念謝恩会が開催された。ご多忙の中、遠藤学長も出席いただいた。最初に卒業生および教授が一同に会する集合写真が、約百四十名



授を囲み六年間の学生生活を振り返ったり、思い思いのポーズをとりながら写真におさまったり、卒業生諸君は限られた時間を惜しむように過ごしていた。いつも女子卒業生のおでやかで美しい容姿に見とれるばかりであるが、今年の華麗さもなお一層であり、臨床実習時の白衣姿とは異なった魅力を見せてくれた。今年



度之余興は卒業生による格調高いピアノ・バイオリン演奏に始まり、サッカー部の演劇、筆者(奥村)のギター弾き語り、そして佐藤医学部長と奥村のデュオ(ビリーバンバン)の「白いブランコ」を替え歌にした「君たちの街、弘前、必ず帰って来よう弘前大学」など、会場はさらに盛り上がった。最後はワイン獲得をかけたジャンケンゲーム

と、時間がたつのを忘れるくらい楽しい雰囲気の中、謝恩会はお開きとなった。卒業という新しい人生のスタート台に立ち、期待に胸をふくらませながらも多少の不安を抱える各卒業生にとって、学位伝達式の厳肅な雰囲気と謝恩会の華やかで楽しいムードは、きっと長く心に刻まれることであろう。



ベスト研修医に贈呈されたメダル(純銀製)。

「前ページより」
て懇親会が行われたが、五年生から今や恒例となった「ベスト指導医賞」、「ベスト六年生賞」の発表が本年も行われ、会場は大いに盛り上がった。教職員も多数の参加があり、教職員、研修医、学生がみな、この一年の研修や臨床実習の思い出について心ゆくまで語り合い、会は盛会裏に終了した。

他学にはない本学独自のユニークな特徴がある。それは賞の最終選考を学生(特に五年生)が投票により行うことであり、このことは教育上大きな意味を持っている。そもそも研修医と五年次学生は立場の違いはあるが、約一年にわたり院内で同じ場を共有し、苦楽を共にしてきた間柄である。学生は、比較的年次が近く、それでいて確実に一日の長を有する先輩である研修医から多くを学び、学ぶ過程の交流を通じて、近未来の自分の姿に思いを馳せるようになるであろう。現研修医たちも自分が五年生のように、当時の研修医から同様に多くを

学んで育ってきたはずである。医師の育つ過程にはこのようなある種の「伝統」が不可欠であり、医師は、人と人とのきずなの中でしか育たない。とも言える。本賞がこれからも、卒業後にわたって連携する「屋根瓦式」教育を促進して、人と人とのきずなを強固なものとし、さらには本学の医学教育の「伝統」の厚みを増すために貢献してゆくことを期待したい。



花田病院長、佐藤医学研究科長と共に、ベスト研修医賞の石原佳奈先生(前列中央)、優秀研修医賞の田村良介先生(同左)、五十嵐正美先生(同右)。

研究室研修 優秀発表賞について

脳神経病理学講座 教授 若林孝一

平成十八年度から研究室研修を三年次後期（火・水・木の午後）に行うことになり、四年が経過しました。さらに、平成十九年度からは研究室研修発表会を行っています。今年は三年次学生七十三名（学士編入学を除く）が、受け入れ希望のあった三十四講座のいずれかにおいて十月から一月まで研修を行いました。

優秀発表賞の審査も行いました。今回も学生一人あたりの持ち時間を八分（発表五分、質疑応答三分）とし、各発表につき三名の教員が審査を行いました（各教員は約十名の審査を行う。今回は二十七名に審査員を依頼）。審査は、①パワーポイントの内容（三十点）、②口演の態度（三十点）、③質問に対する答え方（三十点）について評価し、各教員は十演題の中から印象に残った発表を三つ



選ぶ（ボーナス点を十点加算）という方法で行い、上位三名に優秀発表賞を贈呈しました。全体的にパワーポイントの作り方には慣れており、その内容は甲乙つけがたいものでした。一方、演壇に立って発表することには慣れていないせいか、かなり緊張した表情の学生が多く見受けられました。さらに、審査員やフロアからの質問に対しては、研修内容を理解し良く答えられなかった学生まで幅が見られました。

審査の結果、今回は以下の三演題が優秀発表賞に選ばれました（発表順。カッコ内は配属講座）。黒川貴司「弘前へアレスラット脾臓で抑制された形質細胞の分化は胸腺で促進されている」（ゲノム生化学講座）、奥瀬由唯「透析患者の認知機能」（神経精神医学講座）、小泉亜耶子「がんだけ健康な」を増やしたい――外来化学療法中の患者の声に学ぶ早期疼痛緩和への方策――」（麻酔科学講座）。さらに、以下の六名は優秀発表賞に準ずる成績でした。佐藤洸二（病理生命科学講座）、千葉有紗（感染生体防御学講座）、當麻絢子（社会医学講座）、篠原良仁（脳神経病理学講座）、堤勝彦（小児科学講座）、澤田洋平（整形外科



脳神経生理学講座 教授 上野伸哉

チュートリアル ベストシナリオ賞贈呈式

平成二十一年度、三年次チュートリアル教育でのベストシナリオ賞は北野翔一、板東優太、牧田興志の三名に決定しました。その贈呈式は、三月三日に医学部長室にて行いました。選考は、十名のチュートリアル委員により行いました。最終選考に残った二十編のシナリオから委員各人に上位五編を選んでもらい、その得票数の上位三編を選んでいます。例年、票がわ

れることが多く、その理由の一つに選考委員によってシナリオの完成度を優先するか、実際のシナリオの利用を考慮した発展性、おもしろさを優先するかで順位は大きく異なるようです。しかしながら、今年度は完成度のみならず内容もおもしろいものが多く、選考委員の投票によっても圧倒的支持を得たシナリオの受賞となりました。



「弘前大学医学部臨床実習生の誓い」
臨床実習生の一人として医療の現場に参加するに際し、
1. 私は、人類への奉仕に自分の人生を捧げることを誓います。
2. 私は、学び得た医学知識をもとに、良心と尊厳をもって医学の務めを果たします。

授与式には学生達が共用試験（OSCE）でお世話になった模擬患者（SP）の方々も参加され、SD章の授与を見守っていただきました。またマスコミの取材もあり、いい意味での緊張感が会場に満ちていました。ただ、この神聖な式典に数名の学生が遅刻したため参加できなかった。かつてなかったことであり、大変残念に思う。今一度、医学部入学時の初心に戻り、虚懐に医療人はどうあるべきか考えて欲しい。

平成二十二年四月二日、医学部コミュニケーションセンターにおいて新五年次学生に対するSD章（Student Doctor 章）授与式が行われた。加藤博之総合診療部長の提案で平成十七年度より始められたSD章授与式は本年度で六回目を迎えたが、弘前大学医学部医学科新年度ガイダンスの一環として定着したと思われる。全員が臨床

実習そのまの白衣姿で臨み、心体ともに臨床実習に向かう真摯な気持ちで満ちているようであった。SD章は臨床実習生の身分証であるが、四年次終了時に実施される全国共用試験（臨床実習前に実施される知識（CBT）と診療技能（OSCE）を問う試験）に合格した証明でもある。同時に医療人としての認識を新たにさせる標しでもある。SD章授与式の目的をよく理解し、臨床実習生の誓いの言葉を胸に刻み、五年次BSL、六年次クリニカルクラッシュに臨んで欲しいと思う。

授与式では佐藤敬医学部長と筆者（学務委員長）の挨拶、祝辞、花田勝美附属病院長の訓辞の後、五年次学生代表の久保佳子君に病院長よりSD章が授与された。続いて久保君が以下の「弘前大学医学部臨床実習生の誓い」を宣誓した。

学務委員長 奥村謙
（循環呼吸腎臓内科学講座 教授）

平成22年度 SD章授与式

3. 私は、生命の始まりから人命を最大限に尊重し続けます。また、人間の性の法理に反して医学の知識を用いることはしません。
4. 私は、患者の健康を私の第一の関心事とします。
5. 私は、私への信頼のゆえに知り得た患者の秘密を、たとえその死後においても尊重します。
6. 私は、私を教え導く人々に尊敬と感謝の念を捧げます。
7. 私は、私の自由意志に基づき名譽にかけてこれらのことを厳粛に誓います。

研究室紹介

医療情報部

医学医療情報学講座 教授 羽田 隆 吉

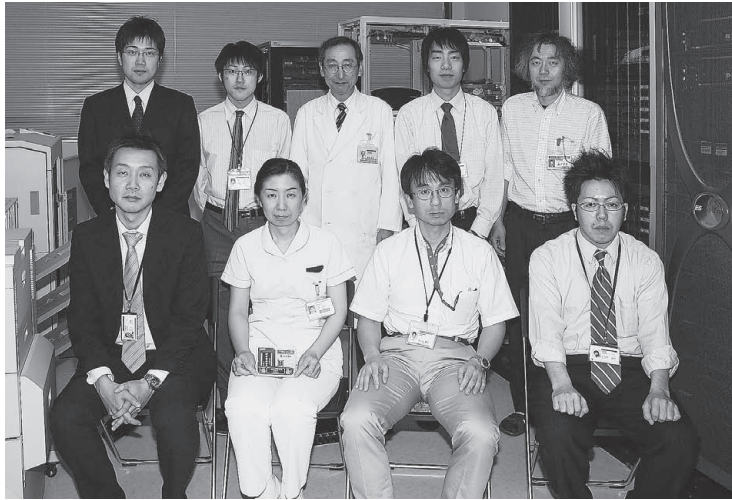
部局化に伴い医療情報部教員の一部が医学医療情報学講座に配置換となりましたが、ここでは研究室紹介に替えて病院部門の紹介をさせていただきます。

【歴史】

医療情報部は平成八年四月に省令設置されました。現行『病院情報管理システム』の先駆である「医療情報システム」は医療情報部長（代行）第三内科須田俊宏教授の指導の下、数々の困難を乗り越え平成八年一月一日に稼働の運びに至ったと聞いています。平成八年十二月一日に医療情報部長（教授）が正式発令さ

【実務】

平成八年一月一日に医療情報システムが稼働して以来、医療情報部は三度のシステム更新とネットワークの更新（再構築）を行ってきました。①「2000 年問題」への対応を含めたシステム更新（稼動平成十二年一月一日）、②契約満了に伴うシステム更新（病院情報管理システムと呼称変更。平成十六年一月一日稼動）、③契約満了に伴うシステム更新（平成二十一年一月一日稼動）であります。これらに加え、中央



れ、以来、当部署は専任教官（員）二名（教授一、助（准）教授一）、兼務看護婦（師）長一名、兼務医事課職員五名、技能補佐員一名の体制で病院情報管理システム（病院ネットワークを含む）の企画・開発・管理運用（学則一附属病院医療情報部内規による）を行っております。

病院情報管理システムの企画・開発（仕様書の策定）は医療情報システム委員会（旧医療情報部運営委員会）の下、各種ワーキンググループの検討を基に作業が進められますが、システムの調達は（当然のこと）総合評価法による政府調達となるため、調達までには官報公示を含めて数々の手続・手順を踏む必要があります。大学本部の財務部（旧経理部）、病院の経営企画課と経理調達課（旧管理課）の指導と支援がなければ調達は不可のように思われます。

●大学院医学研究科

採用（22・3・13）

医学医療情報学講座 助手

津谷 亮佑

休職（22・3・13）

医学医療情報学講座 助教

松坂 方士

定年（22・3・31）

工藤美穂子

（麻酔科学講座助教）

辞職（22・3・31）

小兒外科学講座 教授

棟方 博文

（青森市民病院）

消化器外科学講座 准教授

吉原 秀一

（大館市立総合病院）

産科婦人科学講座 准教授

藤井 俊策

（むつ総合病院）

内分沁代謝内科学講座 助教

柳町 幸

（板柳中央病院）

不整脈先進治療学講座（寄附講座）助手

佐々木憲一（医員）

採用（22・4・1）

病理生命科学講座 助教

中田 章史

（独放射線医学総合研究所）

り、四年次学生に医療面接やリスクマネジメント等の授業を行いました。研究については、副部長佐々木賀広准教授が中心となって、地道にCAD（コンピュータ支援診断）の研究を続けており、実績は特許取得一件、特許出願一件であります。さらに本年は、専門家の学会である World Computer Congress 2010・6th IHP on Theoretical Conference Science に演題：「画像解

人事異動

析による胃癌発生リスクのコンピュータ支援診断」が採用され、五年越しの挑戦が実を結びました。これからの医療情報部の業務上の課題は、電子カルテシステムの（段階的）稼動であります。が、それ以前に、国立大学法人を震撼させている病院情報管理システムのウイルス感染に対し堅固な予防策を早急に講じる必要があります。どうぞ、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

●附属病院

定年（22・3・31）

病理部 准教授

鎌田 義正

（呼吸器外科・心臓血管外科助教）

配置換（22・5・16）

胸部心臓血管外科学講座 助教

谷口 哲

（呼吸器外科・心臓血管外科助教）

採用（22・5・16）

放射線科学講座 教授

高井 良尋（東北大学）

勤務配置異動（22・4・1）

麻酔科学講座 講師

大川 浩文

（救急・災害医学講座講師）

辞職（22・3・31）

循環器内科・呼吸器内科・腎臓内科 助手

伊藤 太平

（国立療養所松丘保養園）

神経科精神科 助教

菅原 知子（医員）

神経科精神科 助手

小田桐 元

（弘前愛成会病院）

呼吸器外科・心臓血管外科 助教

森本 公平（医員）

産科婦人科学講座 助教

谷口 綾亮（病院助手）

昇任（22・4・1）

消化器外科学講座 准教授

小田桐弘毅

（消化器外科・乳癌外科・甲状腺外科講師）

救急・災害医学講座 准教授

花田 裕之

（循環呼吸器内科学講座講師）

整形外科 助教

和田簡一郎（医員）

耳鼻咽喉科 助教

武田 育子（医員）

放射線科 助教

川口 英夫（医員）

検査部 助教

當麻 景章（青森労災病院）

周産母子センター 助教

西 隆

（市立秋田総合病院）

集中治療部 助教

小野 朋子（病院助手）

高度救命救急センター 助教

澤谷 学

（秋田赤十字病院）

高度救命救急センター 助教

越前 崇（むつ総合病院）

高度救命救急センター 助教

坂本 義之（医員）

高度救命救急センター 助教

工藤 大輔

（国立療養所松丘保養園）

神経科精神科 助手

知多 美彦（東台病院）

小兒科 助手

佐藤 知彦（病院助手）

呼吸器外科・心臓血管外科 助手

野村 亜南（医員）

呼吸器外科・心臓血管外科 助手

小笠原尚志（医員）

皮膚科 助手

是川あゆ美（医員）

脳神経外科 助手

菊池 潤（青森労災病院）

周産母子センター 助手

敦賀 和志（病院助手）

周産母子センター 助手

北川 陽介

（岩手県立中部病院）

歯科口腔外科 講師

榊 宏剛

（歯科口腔外科助教）

高度救命救急センター 講師

伊藤 勝博

（脳神経外科学講座助教）

配置換（22・4・1）

内分沁代謝内科学講座助教

照井 健

（内分沁代謝内科学講座助教）

高度救命救急センター 助教

境 雄大

（胸部心臓血管外科学講座助教）

消化器外科・乳癌外科・甲状腺外科 助教

宮本 慶一

（周産母子センター助教）

高度救命救急センター 助手

六戸 大樹（皮膚科助手）

採用（22・5・1）

消化器外科・乳癌外科・甲状腺外科 助教

丸山 将輝（医員）

産科婦人科 助教

福原 理恵（医員）

リハビリテーション部 助教

岩崎 弘英（医員）

泌尿器科 助手

杉山 尚樹（医員）

泌尿器科 助手

鈴木裕一朗（医員）

麻酔科 助手

工藤 隆司（医員）

集中治療部 助手

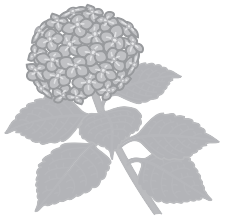
佐々木剛範（医員）

配置換（22・5・1）

整形外科 助教

湯川 昌広

（リハビリテーション部助教）



弘前大学医学部

臨床教授・臨床准教授

称号付与者

臨床教授

竹森 弘光（青森県立中央病院 特定診療部門長リウマチ膠原病内科部長）
平成二十二年四月一日～平成二十五年三月三十一日
小沢 一浩（国立病院機構青森病院内科医長）
平成二十二年四月一日～平成二十五年三月三十一日
中川 英之（国立病院機構弘前病院呼吸器科部長）
平成二十二年四月一日～平成二十五年三月三十一日
八代 均（大館市立総合病院第三内科部長）
平成二十二年四月一日～平成二十五年三月三十一日
立花 直樹（青森県立中央病院輸血部長）
平成二十二年四月一日～平成二十五年三月三十一日
野村由美子（国立病院機構弘前病院小児科医長）
平成二十二年四月一日～平成二十五年三月三十一日
森田 隆幸（青森県立中央病院外科部長）
平成二十二年四月一日～平成二十五年三月三十一日
柿崎 寛（国立病院機構弘前病院副院長）
平成二十二年四月一日～平成二十五年三月三十一日
川口 俊明（青森県立中央病院泌尿器科部長）
平成二十二年四月一日～平成二十五年三月三十一日
太田 修司（青森県立中央病院耳鼻咽喉科部長）
平成二十二年四月一日～平成二十五年三月三十一日
工藤 明（弘前市立病院 麻酔科科長）
平成二十二年四月一日～平成二十五年三月三十一日
長尾乃婦子（青森県立中央病院麻酔科部長）
平成二十二年四月一日～平成二十五年三月三十一日
山本 勝丸（国立病院機構弘前病院呼吸器科医長）
平成二十二年四月一日～平成二十五年三月三十一日
田澤 康明（青森県立中央病院内分泌内科部長）
平成二十二年四月一日～平成二十五年三月三十一日
杉本 和彦（国立病院機構弘前病院小児科医長）
平成二十二年四月一日～平成二十五年三月三十一日
畑 正樹（青森県立中央病院心臓血管外科部長）
平成二十二年四月一日～平成二十五年三月三十一日
青木 計績（青森県立中央病院外科副部長）
平成二十二年四月一日～平成二十五年三月三十一日
梅原 豊（青森県立中央病院外科副部長）
平成二十二年四月一日～平成二十五年三月三十一日
久留島徹大（青森県立中央病院外科副部長）
平成二十二年四月一日～平成二十五年三月三十一日
西川 晋右（青森県立中央病院外科副部長）
平成二十二年四月一日～平成二十五年三月三十一日
横山 昌樹（国立病院機構弘前病院外科医長）
平成二十二年四月一日～平成二十五年三月三十一日

成田 知（大館市立総合病院泌尿器科部長）
平成二十二年四月一日～平成二十五年三月三十一日

佐々木幸雄（国立病院機構弘前病院放射線科医長）
平成二十二年四月一日～平成二十五年三月三十一日

木村 尚正（青森県立中央病院麻酔科副部長）
平成二十二年四月一日～平成二十五年三月三十一日

松野 伸哉（国立病院機構弘前病院麻酔科）
平成二十二年四月一日～平成二十五年三月三十一日

診療教授等称号付与者

診療教授

坂本 十一（消化器血液内科科学講座准教授）
平成二十二年五月一日～平成二十五年四月三十日
長内 智宏（循環呼吸臓内科学講座准教授）
平成二十二年五月一日～平成二十五年四月三十日
玉澤 直樹（内分泌代謝内科学講座准教授）
平成二十二年五月一日～平成二十五年四月三十日
鈴木 保之（胸部心臓血管外科学講座准教授）
平成二十二年五月一日～平成二十五年四月三十日
小田桐弘毅（消化器外科学講座准教授）
平成二十二年五月一日～平成二十五年四月三十日
石橋 恭之（整形外科科学講座准教授）
平成二十二年五月一日～平成二十五年四月三十日
中野 創（皮膚科学講座准教授）
平成二十二年五月一日～平成二十五年四月三十日
石原 弘規（麻酔科学講座准教授）
平成二十二年五月一日～平成二十五年四月三十日
橋本 浩（手術部准教授）
平成二十二年五月一日～平成二十五年四月三十日
坪 敏仁（集中治療部准教授）
平成二十二年五月一日～平成二十五年四月三十日
福井 康三（医療安全推進室准教授）
平成二十二年五月一日～平成二十五年四月三十日

診療准教授

下山 克（消化器内科・血液内科・膠原病内科講師）
平成二十二年五月一日～平成二十五年四月三十日
中村 典雄（循環器内科・呼吸器内科・腎臓内科講師）
平成二十二年五月一日～平成二十五年四月三十日
松井 淳（内分泌代謝内科学講座講師）
平成二十二年五月一日～平成二十五年四月三十日
伊東 重豪（腫瘍内科学講座講師）
平成二十二年五月一日～平成二十五年四月三十日
藤田 浩史（小児科助教）
平成二十二年五月一日～平成二十五年四月三十日
對馬 敬夫（呼吸器外科・心臓血管外科講師）
平成二十二年五月一日～平成二十五年四月三十日

鳴海 俊治（消化器外科・乳腺外科・甲状腺外科講師）
平成二十二年五月一日～平成二十五年四月三十日

津田 英一（整形外科講師）
平成二十二年五月一日～平成二十五年四月三十日

松崎 康司（皮膚科講師）
平成二十二年五月一日～平成二十五年四月三十日

古家 琢也（泌尿器科講師）
平成二十二年五月一日～平成二十五年四月三十日

佐藤 哲観（麻酔科講師）
平成二十二年五月一日～平成二十五年四月三十日

中村 吉秀（リハビリテーション部講師）
平成二十二年五月一日～平成二十五年四月三十日

須貝 道博（小児外科講師）
平成二十二年六月一日～平成二十五年五月三十一日

社団法人 青森医学振興会

沿革 平成11年3月1日 弘前大学医学部医学科後援会鵬校医学振興会発足（任意団体）
平成13年4月2日 社団法人青森医学振興会設立許可（青森県）

振興会では、21世紀の青森県の医学・医療を積極的に支援しようと次の事業を行っております。
○医学教育の助成 教育活動を活性化するための支援
○医学研究の助成 研究活動を高度化するための支援
○地域医療振興事業の助成 地域医療に貢献するための支援
○医学国際交流の助成 国際学術交流の支援

随時、会員の募集とご寄附の受付をしております。
会費と寄附金の納入方法は下記の通りです。

口座名 社団法人 青森医学振興会			
口座	青森銀行 弘前支店	普通 1087485	※ 各銀行の本文支店及び
	みちのく銀行 大学病院前支店	普通 0198579	ゆうちょ銀行から振込む
	ゆうちょ銀行振替(旧 郵便振替)	02200-4-57580	場合は、手数料無料です。
会費	会員種別	年会費	お振り込みいただく場合は、 お手数ですが、振興会事務局まで ご連絡(電話、メール)願います。
	医学部教員	1万円	
	医学部卒業生	2万円	
	賛同する個人 賛同する団体	1万円 10万円	

お問い合わせ TEL:0172(33)5111内線6519 E-mail:jm6519@cc.hirosaki-u.ac.jp

診療講師

吉村 徹郎（消化器内科・血液内科・膠原病内科助教）
平成二十二年五月一日～平成二十五年四月三十日

崎原 哲（内分泌代謝内科学講座助教）
平成二十二年五月一日～平成二十五年四月三十日

佐々木伸也（小児科助教）
平成二十二年五月一日～平成二十五年四月三十日

谷口 哲（呼吸器外科・心臓血管外科助教）
平成二十二年五月一日～平成二十五年四月三十日

村田 暁彦（消化器外科学講座助教）
平成二十二年五月一日～平成二十五年四月三十日

柳澤 道朗（整形外科科学講座助教）
平成二十二年五月一日～平成二十五年四月三十日

会津 隆幸（皮膚科学講座助教）
平成二十二年五月一日～平成二十五年四月三十日

橋本 安弘（泌尿器科助教）
平成二十二年五月一日～平成二十五年四月三十日

木村 太（麻酔科助教）
平成二十二年五月一日～平成二十五年四月三十日

橋場 英二（集中治療部助教）
平成二十二年五月一日～平成二十五年四月三十日

大谷 勝記（周産母子センター助教）
平成二十二年五月一日～平成二十五年四月三十日

お知らせ

医学部ウォーカーへ教授
就任のご挨拶を掲載いただ
ける方は、弘前大学医学研
究科総務グループ（総務
担当）までご連絡願います
(0172-39-5194)。ただし、紙
面の都合により掲載ができ
ない場合もございますので、
あらかじめご了承ください。

編集後記

今年の弘前の桜は、ゴー
ルデンウィーク中に満開と
なり、桜祭りも大いに盛り
上がったようです。暖冬と
いわれながらも、四月に
入った頃から寒の戻りがあ
り、時間をかけて蕾を膨ら
ませたのが良かったようで
す。この春の卒業生進路状
況を省みても、青森県内で
臨床研修を行う卒業生が増
加傾向にあるようです。慢

（鬼島 記）